

## 「税」は詐欺？

大洗町立第一中学校 1年 岡田 咲七

私は百円ショップが好きだ。理由は安価な値段で沢山のものを買えるからだ。幼い頃、自分のお小遣いで百円ショップで買い物をした。レジに商品を通すと、百円の商品が百十円という表記になっていた。幼い頃の私は税なんて知る由もなく、ただ単に百円ショップに詐欺をされたと思った。それを母に伝えたら、「それは消費税といって、物を買う時は必ず払わなければいけなくて、そもそも国民には税を支払う義務があるんだよ」と言われた。けれどそれでは百円ショップではなく、百十円ショップではないか。私は消費税なんていらなと思った。その後も税には興味がわかず、身近なものと感じずに過ごしていた。

年齢を重ねていくにつれ、税がどういうものかわかってきた。でも要らないんじゃないかという気持ちは依然変わっていなかった。近頃の選挙では「消費税をなくします」と国民に訴える政党もある。私は票を入れられないが、税金がなくなるなら投票しているかもな、なんて想像していた。その頃ちょうど授業で税について学んだ。予想以上に税金はわれわれの生活に役立っていることを知り、驚いた。わたしは得をすることも好きだ。そこから税に興味湧き、調べることを始めてみた。学び進めていくと、国民の幸福度が高い国はとても税金が高いことを知った、お金の出費が多いはずなのに、何故みんな幸福なのだろうか。理由は学費や医療費の無償化など沢山の手当があり、国民が税金のリターンを直接的に感じられるからだという。

私はこの時、税金は予約金みたいだなと思った。税金を支払う代わりに、沢山の福祉が使わせてもらえる。とすれば税金をたくさん払ったとしても、そこまで損をしていないと感じる。私が幼い頃に思った。「税は詐欺」というのとはかけ離れている。

私たちが日々支払っている税金。一見すると自分の負担が大きいようにも感じる。だが税金は私たちの生活を支え、社会の形を作るためには大切のものであり、学費や医療費の無償化、福祉の充実のすべてが私たちが税金といった「予約金」がもたらす恩恵だ。

税金は決して無駄ではない。今日から、「損」としてではなく、自分の未来、そして社会自体を支えるための予約金と捉えて、税と共に歩いてほしい、きっとその先には、豊かな社会が広がっているにちがいない。